

3-9. リサイクル事業

3-9-1. 事務事業評価シート

事務事業評価シート

H 28 年度

事務事業名	リサイクル事業		総合計画 個別施策 コード/名	4341	ごみの減量化・リサイクルの推進
新規・継続	継続	事業開始年度	H9	担当課	廃棄物対策課
根拠法令等	あり	容器包装リサイクル法、使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律、資源有効利用促進法			

1. 事業の概要

【事業内容】

「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」に基づき、小型家電回収事業を実施している。また、ごみの資源化を推進するため、「資源有効利用促進法」「容器包装リサイクル法」等に基づき、有価物の資源業者への売却(鉄類・アルミ・ビン・ペットボトル等)及び廃乾電池等をリサイクル業者へ運搬委託処理事業を実施している。更に、町内立地企業等に対する資源化量調査を行っている。

【成果目的】

小型家電や有価物(鉄類・アルミ・ビン・ペットボトル等)及び廃乾電池を種類別に分別し、確実にリサイクル業者へ引き渡し、リサイクルを実施する。

2. 活動指標と成果指標

指標名	単位	説明	H26	H27	H28	H29	
			目標	目標	目標	目標	
活動指標	町全体の資源化量	t	資源化量	3,288	3,349	3,390	3,432
	リサイクルしている分類数	種類	霞ヶ関センターでリサイクルしている品目の分類数	3,610	集計中		
成果指標	町全体の資源化率	%	町全体の資源化率	15	15	16	16
	霞ヶ関センターでの資源化量	t	霞ヶ関センターで処理しているごみのうち資源化している量	14	15		
				16.5	16.8	17.0	17.2
			17.6	集計中			
			1,737	1,761	1,786	1,811	
			1,713	1,644			

3. 事業費の内訳とコスト分析

(1) 歳出内訳

H26年度(決算)	H27年度(決算)	H28年度(予算)
2,284,919	2,019,448	4,499,000

(2) 歳入

H26年度(決算)	H27年度(決算)	H28年度(予算)
31,548,956	25,597,776	28,940,000

歳入内容: 可燃・不燃有価物、ペットボトル、小型家電等の売上代金

	[種別]	[金額]	[内容]
決算内訳	廃棄物等処分委託料	1,195,948	家電リサイクル法に該当する不法投棄された廃家電処理(処理量5,320kg)
			使用済み乾電池処理(8,670kg)
	業務委託料	823,500	不燃有価物運搬(66台)

(3) 人件費(時間)

	H26年度		H27年度	
	時間数	人件費概算	時間数	人件費概算
正職員(時間内)	141	246,016	233	407,983
正職員(時間外)	3	6,566	7	15,321
臨時職員		0		0
その他				
合計	144	252,582	240	423,304

(4) 町民1人当たりコスト (事業費+人件費-歳入)

	H26年度(決算)	H27年度(決算)
事業費	2,284,919	2,019,448
人件費	252,582	423,304
小計	2,537,501	2,442,752
歳入	31,548,956	25,597,776
計	-29,011,455	-23,155,024
町民1人当たり	-約 604円	-約 482円

4. 事業の方向性と取組方針

▼担当者記入

2~3の考察と課題、改善計画

再資源化を促進するため、リサイクルの必要性は年々高まっていることから、国では各種リサイクル法の整備が進められている。それらの法体系の下で、リサイクルの取り組みを更に進めていくとともに、事業者や町民に対してもリサイクルの啓発活動を積極的に行っていく。

▼課長記入

【方向性・業務改善】	理由
将来的な方向性 拡大して継続	持続可能な循環型社会の形成に向けた取組を更に推進していく必要がある。
業務改善 一部改善	資源化率は上昇傾向にあるため、引き続きリサイクルに関する取組を推進していくとともに、先進市町村等の事例を調査研究を行い、必要に応じて改善に取り組む。

【取組方針】 ※いつまでに、どんな状態にするか。そのために今年度は何をやるか。

前年度より資源化率を更に向上させるための各種施策を検討・実施する。

3-9-2. 委員会における評価と指摘事項

※分数は全委員のうち妥当であると評価した委員の数を示す
 ※「○」は「妥当である」、「×」は「妥当でない」を示す

委員会としての評価		補足
目的に対する手段	6/6 → ○	
活動指標	6/6 → ○	
成果指標	6/6 → ○	・分別への意識、方法の理解を指標とすべき。
方向性	5/6 → ○	・資源化率を上げるための具体的案を検討すべき。 ・ヒアリングの中で挙げられた具体的な改善策を実行していただきたい。
業務改善	4/6 → ○	・資源化率が県平均よりも低いいため、改善すべき。 ・資源化率を大幅に改善。
取組方針 (改善方針)	6/6 → ○	・リサイクル量を増やすことで燃えるごみの量を減らすため分別の種類を増やすべき。 ・分別を増やすことを条件に「○」。 ・記載内容が抽象的。阿見町の現状に合わせて、具体的な策を打ち出して欲しい。

ヒアリングにおける主な指摘事項

- ・リサイクルしている分類数というのは活動指標になるのか。
- ・自治体によってはごみの出し方がもっと細かい。資源化をすると、焼却施設にとっても余計なものを燃やさなくて済むということかと思う。
- ・取組方針に「更に向上させるための各種施策を検討・実施する」とあるが、廃棄物対策課としての課題が見えてこない。
- ・ごみの量が多いということだが、燃えるごみにチラシを入れてしまったり、キャップを入れていたりする人は多い。リサイクルの方にまわしていけば、ごみの量も減る可能性もあるのでは。そういったことも今後の方針に入れてはどうかと思う。
- ・ごみが多いということは、資源化から結びつくのだから、資源化を徹底していくという方向性はあるのでは。
- ・ごみの量を減らすというのものもあるかもしれないが、減らすよりもリサイクルの品目を増やすしかないのでは。牛乳パック、トレイなど、お店でも回収している。そういったことを行えば燃えるごみは減ると思う。
- ・つくば市よりも阿見町の方がごみが多い理由について、回収の回数やごみ袋の大きさという話があったが、普通に生活していれば同じようにごみが出るはず。それよりは、資源化の量が少ないというのが正しいと思う。資源化できるはずのものも項目が無いから捨ててしまうために燃えるごみが多いのであって、家庭から出るごみはだいたいどこでも同じだろう。それを資源化しようという意識が足りないためでは。
- ・袋に分別の費用を載せている自治体もある。一袋 50 円とか、100 円とか。
- ・生ごみの袋がとて小さくて高い自治体もある。
- ・分別への意識、分別の方法を知っているかというところを、何かの調査の時に調べられないか。そういったものを成果指標としてはどうか。
- ・町民一人あたりコストがマイナスという事業は初めてなので、有用な事業。

ヒアリングシート自由記載

- ・分別を多くし、リサイクル量を多くすることを希望します。
- ・分別の種類を増やしても良い。

3-9-3. 担当課による対応方針

平成28年度 外部評価結果に対する対応方針

事業名	リサイクル事業	担当課	町民生活部廃棄物対策課
-----	---------	-----	-------------

1. 目的に対する手段

目的に対する手段	外部評価結果	妥当である	事業内容の見直し:	無し
	担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たため、現行の事業内容を継続する。		

2. 指標

活動指標	外部評価結果	妥当である	活動指標の見直し:	無し	※有りの場合は翌年度の事務事業評価に反映			
	現行	町全体の資源化量	t	資源化量	H26	H27	H28	H29
		リサイクルしている分類数	種類	霞ヶ関センターでリサイクルしている品目の分類数	3,288	3,349	3,390	3,432
	来年度	町全体の資源化量	t	資源化量	14	15	16	16
		リサイクルしている分類数	種類	霞ヶ関センターでリサイクルしている品目の分類数	3,288	3,349	3,390	3,432
担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たため、来年度についても現行の活動指標とする。							

成果指標	外部評価結果	妥当である	成果指標の見直し:	無し	※有りの場合は翌年度の事務事業評価に反映			
	現行	町全体の資源化率	%	町全体の資源化率	H26	H27	H28	H29
		霞ヶ関センターでの資源化量	t	霞ヶ関センターで処理しているごみのうち資源化している量	16.5	16.8	17.0	17.2
	来年度	町全体の資源化率	%	町全体の資源化率	1,737	1,761	1,786	1,811
		霞ヶ関センターでの資源化量	t	霞ヶ関センターで処理しているごみのうち資源化している量	16.5	16.8	17.0	17.2
担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たため、来年度についても現行の成果指標とするが、分別への意識・方法の理解を指標とすべきとの意見があったため、広報あみ等による効果的な周知を行う。							

3. 事業の方向性

		外部評価結果	妥当である	現行の方向性	拡大して継続	方向性の見直し (見直し後の方向性)	無し
方向性	担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たため、現行の方向性のとおりとするが、資源化率を上げるための具体的な案を検討すべきとのご意見があったため、ごみの減量化等の施策を含めて検討する。					
		外部評価結果	妥当である	現行の業務改善	一部改善	業務改善の見直し (見直し後の業務改善)	無し
業務改善	担当課の考え方	資源化率の向上については、担当課としても課題として認識しており、県平均を下回っている現状にあるため、他市町村の事例を調査し、改善できるように検討する。					

4. 取組方針

		外部評価結果	妥当である	取組方針の見直し	有り
取組方針 (改善方針)	現行の取組方針	前年度より資源化率を更に向上させるための各種施策を検討・実施する。			
	【評価結果を踏まえた今後の取組方針】	分別の種類を増やすべきとの意見を受け、霞クリーンセンターにおける分別については、取り組める事項等について整理を進めながら、実施できるように前向きに検討していく。 町全体としての取り組みとしての新たなリサイクル品目を増やすことについては、収集運搬等による新たな費用発生の問題や霞クリーンセンターの受入れ体制の問題等から直ちに実施することは現実的には難しいですが、今後の検討課題として調査研究していく。			